

平成17年度 政策評価書（事後の事業評価）

担当部局：管理局開発計画課

実施時期：平成17年10月～18年3月

事業名： 哨戒ヘリコプター（艦載型）SH-60K

政策分野： 防衛装備の適正な維持・管理（研究開発）

事業内容： ヘリコプター搭載護衛艦に搭載し、艦艇と一体となって対潜戦、対水上戦を含む各種の任務を遂行するため、SH-60Jをベースとして所要の能力向上を図った哨戒ヘリコプター（艦載型）SH-60Kの改造開発を行った

所要経費： 約402億円

評価の内容

1 事業の目的

SH-60Jの除籍減耗への対応及び軍事科学技術のすう勢に対応しつつ、多様な任務に対して効果的に対応するため、必要な能力向上を図った哨戒ヘリコプター（艦載型）SH-60Kを開発することを目的とした。

2 達成状況

(1) 達成効果

開発の経緯と得ようとした効果

潜水艦の無反響化など軍事科学技術のすう勢に対応した能力の維持・向上及び警戒・監視、輸送・救難など多様な事態に対しても効果的に対応してゆくと共に、高い静粛性や戦術を立てるために必要な情報処理能力の向上等の所要に応じるため、現有SH-60Jをベースとした哨戒ヘリコプター（艦載型）SH-60Kを開発した。

達成された効果

以下の5点の主要評価項目の達成により、現有のSH-60J型航空機をベースとして、対潜能力及び対水上戦能力等を向上させた哨戒ヘリコプター（艦載型）の改造開発を実施するという技術開発目標を達成していることを確認した。

ア 飛行性能・特性

高性能ロータを使用したホバリング性能等について、特定の搭載重量におけるホバリングが可能であること等を確認した。

イ 機体

キャビンスペースを拡大し、またソーナー（送受波器、巻上機）及びソノブイ（注1）投射器の着脱性等について、所要時間以内であること等を確認した。

ウ 主要装備品

高性能ソーナー、戦術情報処理表示装置（注2）、着艦誘導支援装置等の各種機能について、所要の性能がでていることを確認した。

エ 艦ヘリ接続機能

飛行試験において着艦誘導支援装置が正常に作動し、母艦へのアプローチから着艦まで自動飛行できること等を確認した。

オ 信頼性・整備性

信頼性・整備性として、機体及び各搭載装備品のMTBF（注3）、MTTR（注4）について、SH-60Jと同等以上であることを確認した。

（注1）ソノブイ：航空機から海中に投下して使用する対潜水艦用音波式探知機

（注2）戦術情報処理表示装置：敵や味方の情報や戦術環境を集積・分析し、操縦者等に表示する装置

（注3）MTBF：Mean Time Between Failure（平均故障間隔）

（注4）MTTR：Mean Time To Repair（平均修復時間）

以上の達成効果により、ソーナーの高性能化、戦術情報処理装置の高性能化、ASM-97式魚雷・対潜爆弾装備による武器の多様化、赤外線暗視装置・ISAR機能付レーダー装備による警戒監視能力の向上、自機防御装置装備による自己防御等能力の向上、キャビンスペースの拡大等、飛行安全性の向上及びメインロータの高性能化について現有SH-60Jに比べて能力向上が図られており、これらによりSH-60Kは現在の軍事技術のすう勢に対応した対潜能力を維持しつつ、従来の対

潜戦、対水上戦、警戒・監視に加え、輸送・救難等の多様な任務に対してより効果的に対応することが可能となった。

(2) 達成時期

平成9年度から試作に着手し、平成16年度までに技術試験及び実用試験を終了し、所要の能力向上が図れたことを確認した。

(3) 教訓等事項

本事業は、技術試験と実用試験を同時に実施したため、事業全般にわたり技術開発の効率性及び運用者(海上自衛隊)の要求の一貫性を維持する重要性を確認できた。

今後の対応

本事業により、軍事科学技術のすう勢に応じた対潜水艦能力の向上、多様な任務への対応が可能となったことから、哨戒ヘリコプター(艦載型)SH-60Kの所要の整備を行う。

その他の参考情報

哨戒ヘリコプター(艦載型)SH-60Kの構成・・・・・・・・別紙第1

哨戒ヘリコプター(艦載型)SH-60Kの運用概要図・・・・・・・・別紙第2